

## 2004年インド洋地震津波のタイ国海岸での浸水高調査および検潮記録の調査

## 2004 Indian tsunami in Thailand: Tsunami height and tide gauge records

# 都司 嘉宣 [1]; 松本 浩幸 [2]; 行谷 佑一 [1]; 岩崎 伸一 [3]; Wattana Kanbua[4]; Mongkonkorn Srivichai[5]; Vorawit Meesuk[6]  
# Yoshinobu Tsuji[1]; Hiroyuki Matsumoto[2]; Yuichi Namegaya[1]; Sin-Iti Iwasaki[3]; Kanbua Wattana[4]; Mongkonkorn Srivichai[5]; Meesuk Vorawit[6]

[1] 東大地震研; [2] 海洋セ・深研; [3] 防災科研; [4] MMD, Thai; [5] Ransit Univ.; [6] HAI, Thai  
[1] ERI, Univ. Tokyo; [2] DSRD, JAMSTEC; [3] NIED; [4] MMD, Thai; [5] Ransit Univ.; [6] HAI, Thai

2004年インド洋地震のタイ国の津波浸水高調査については、松富ら(2005)が地震発生の4日後(2004年12月30日)から6日間の調査を行った。また、佐竹ら(2005)も2005年1月28日から2日間の津波浸水高調査を行った。これらの結果によると、Phuket島で5mを越す津波浸水高が測定され、Phuket島から北に約50km離れたKhao Lakでは10mを越す浸水高が測定されたことが報告されている。しかし、これらの調査は、Phuket島およびKhao Lak

周辺に限られており、タイ国のインド洋に直接面した沿岸(Phuket島以北Ranong以南)を全てに関して網羅したわけではなかった。そこで、われわれはこのPhuket島以北Ranong以南での津波浸水高や被害状況の全体像を知るために、この地域の現地調査を行った。なお、すでに上述のような調査が完了しているPhuket島およびKhao Lakの地域については、調査を大幅に省略し、他の地域を重点的に調査した。また、タイ国インド洋沿岸には、王立海軍あるいは王立海洋局が管理する検潮所が8ヶ所存在する。津波来襲時には1ヶ所の検潮儀を除き機能しており記録を残している。そこで、津波浸水高の調査と同時に、これらの検潮儀についてもその状況を調査した。今回のわれわれの調査で、Phuket島からRanongにかけて37地点の津波の高さを測定することができた。われわれの調査で判明した一番高い津波高さは、Ban Thung Dapで19.57mであった。ほかにもBan Nam Kimでは15.77mの津波が測定された。いっぽうでこれらの地域から北に向かうにつれて、津波の高さが低くなっていることにも注目に値する。とくに、Ban Thale Nokでは津波高さが平均して6mを越える程度、Ranong周辺では平均して3m程度である。このことから、Ban Nam Kim周辺で津波の浸水高分布が最高となり、ここをピークとして南北に次第に低くなっていることがわかる。